

新潟県中越地域

重点プロジェクト(3) 県産材利用拡大プロジェクト

大径材の新たな活用方法の普及促進

～スギ大径材の製材・乾燥技術の実用化～

現状と課題

地域のスギ人工林は、その8割が利用期となる9齢級(45年生)以上に達し(図1)、立木の大径化が進み、柱、梁などの製材に適寸の中目材(直径20~28cmの丸太)が不足している。

このため、中目材に代わる大径材の建築用途への利用拡大が必要である。

取組概要

地域では小規模な製材工場が主体であり、大径材を利用する上で地域の特性に合った製材・乾燥技術を普及することが求められている。このため、地域で伐採されたスギ大径材(86年生)を用いて(図2)、心去り構造材の製材、乾燥技術の実証試験を地域の製材所と県森林研究所と合同で行うこととした。

<実証試験の内容>

- ・大径丸太から心去り材の効率よい製材手順
- ・反りを押さえる心去り材の乾燥手法

取組の成果・効果

実証試験では、製材手順による反りなどの変形について一定の知見が得られた。また、反りを矯正する木材乾燥の積み方を確認できた(図3)。これらの成果に基づき、県森林研究所が「スギ心去り構造材の加工と利用」の解説書(図4)を作成し、製材工場へ普及を図った。

心去り材の利用技術の定着化を図るため、県単独事業が始まり、研究開発した技術で製材し、出荷・利用する工場が支援された。

<H30 ~R3の成果>

- ・県内のべ10事業体(モデル区域内3事業体)が技術を活用
- ・県単独事業で6事業体が心去り材製材(約900m³)に取り組んだ

取組が進んだ要因

地域材を地域の製材工場の設備を用いて試験したことで、大規模工場や特殊機材がない生産環境でもできる技術が実証できた。

これから取組む地域へのアドバイス

川上と川中の事業体が意見交換する場を設け、双方の課題と解決策について議論を重ねることが、実証事業の実施につながった。(素材生産の拡大に主伐が有効であり、高齢級化するスギ人工林の大径材の有効活用を議論。)

地域の生産、利用現場の環境、条件に応じた技術を確立することで、大径材の新たな活用が図られる。

【担当】

新潟県長岡地域振興局農林振興部林業振興課 笹川伸子

【連絡先】

メール: sasagawa.nobuko@pref.niigata.lg.jp

電話: 0258-38-2572

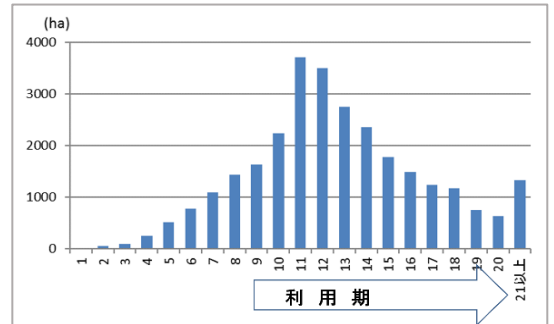


図1 中越地域齢級別スギ人工林の面積



図2 高齢級の主伐地で伐採された大径材

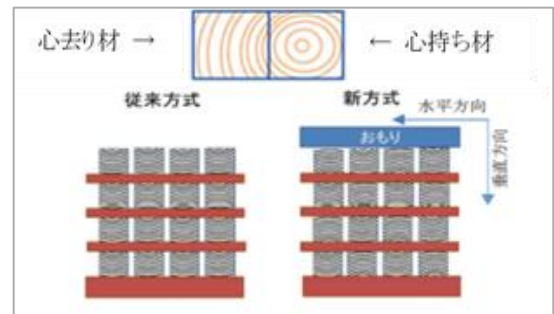


図3 木材乾燥の積み方(おもりをのせ人工乾燥することで垂直方向の反りが矯正)



図4 解説書と製材された心去り材(平角)